

受験番号	
------	--

日本赤十字秋田看護大学大学院
看護学研究科 看護学専攻 修士課程

令和6年度 Ⅱ期 入学試験問題

[小論文]

【注意事項】

- 1 制限時間は60分です。
- 2 受験番号は、この表紙と解答用紙の全てに記載してください。
- 3 質問があるときは、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙および問題文とも、持ち帰ってはいけません。

【問題】

2021年9月5日に行われた東京2020パラリンピック閉会式のテーマは「Harmonious Cacophony」でした。音楽用語のcacophonyは不快な音や不協和音という意味で、直訳すると「調和のとれた不協和音」となりますが、大会組織委員会は「違いが輝く世界」と表現しました。この「Harmonious Cacophony」についてあなたが考えることと大会を通じた感想を、資料1)と2)の文章も参考にして、合わせて800字以内で述べなさい。(なお、disabilityの意味での「しょうがい」という言葉を文中に使用する場合、障害、障がい、障碍のいずれの表記も可としますが、混在を避けて統一してください。)

資料1) パラリンピックとは(日本パラリンピック委員会のホームページより)

「障がいのあるトップアスリートが出場できる世界最高峰の国際競技大会です。夏季大会と冬季大会があり、国際パラリンピック委員会(IPC)は、大会を通じ共生社会の実現を促進することを目指しています。それぞれオリンピックの開催年に、原則としてオリンピックと同じ都市・同じ会場で行われます。」

(出典：<https://www.parasports.or.jp/paralympic/what/index.html>)

資料2) 東京2020パラリンピック競技大会

当初の予定から1年延期された2021年8月24日から9月5日まで東京都で開催、162の国と地域などから身体(肢体、視覚、平衡機能)あるいは知的障がいのいずれかに該当する約4400人が参加し、22競技539種目が行われた(東京2020オリンピックは33競技339種目)。パラリンピックで競技数に対する種目数が多いのは、障がいの種類や程度に応じて細かいクラス分けがなされていることによる。

日本の選手団は、個人では陸上競技、水泳、バドミントン、車いすテニス、柔道、自転車、ボッチャ、トライアスロン、卓球で、団体では車いすバスケットボール男子、ゴールボール女子、男女混合のボッチャと車いすラグビーで、それぞれメダルを獲得する活躍を見せた。

設問の理由：

東京オリンピック・パラリンピックはすでに過去の話題ではあるが、来年パリでの次の開催との間隔が3年と短くパリ大会に向けた話題も昨今増えていることから、時宜を逸するものではないと判断した。多様性や個性がより尊重される内外の社会状況を理解し述べた上で、メダルを争う競技としてのパラリンピックを観戦して感じたことを問いたい。

なお、問題文では日本パラリンピック委員会の表記に倣って「障がい」としたが、解答の文中では障害や障碍の表記でも可であることを付記した。

問題の解答や考え方の例：

まず、harmonious cacophony というキーワードに関連して、多様性、個人や個性の尊重、共生や共存、ソーシャルインクルージョンやダイバーシティ、障害への社会や環境の関与などに言及することを求めたい。

その上で、さまざまな障害を持つ人を知り認め合うという点で、このような大きな国際大会が果たす役割を評価することもできるであろう。

一方で、東京パラリンピックの22競技539種目（同オリンピックは33競技、339種目）という種目数の多さからもわかるように、パラリンピックは障害の種類や程度を細かくクラス分けすることで成立しており、極めて精緻に構築（あるいは区別）されたグループ内のゲームとも言える。したがって、このイベントと日頃の社会や環境における障害への理解とを一連のものとは捉えきれない、という感想もあり得る。

すなわち、「違いが輝く世界」を実現するために、トップアスリートがメダルを争うパラリンピックが有効な手段やきっかけにはなり得るものの、その先に社会の理解や環境の変容をより広く進める目的がある、というような論点も重要であると考えられる。